



owner's manual



MOTIVE POWER

お客様へ

この度は PGO SCOOTER BON125 をお買上げ頂きまして誠に有難う御座います。

商品に添付されている取扱説明書は英文で作られております。

従って、簡単では御座いますが、機能及び取扱い方法について説明している箇所を日本語にてご理解頂ける様、本書を作成いたしました。

乗車される前に必ず本書をお読み頂けます様お願い致します。

本書内で BON125 を機種記号 JXC-125DAIE と、4stroke エンジンを(4T)として標記されます。

不具合等でお困りの場合は、お買い求めの販売店様へご相談ください。

PGO 日本代理店

**NOVEL
FORCE**

内 容

安全に運転する為の注意点	2	乗車する際の注意事項	22
各部名称	3	エンジンを始動	23
車体識別	4	暖機運転	23
シャッターキー操作方法	5	スクーターに乗るにあたって	24
メーターインジケーター	6~7	ブレーキ操作	24
液晶メーター操作方法	8	エンジンの慣らし運転	25
ベーシックモード・エンジンニュース	9	駐車	25
時計調整・オイルインジケーター・エラーコード	10	定期点検	26
ストップ・アンド・ゴーコントロールシステム	11~12	定期点検スケジュール	26~27
ハンドルスイッチ操作方法	13	エキゾーストコントロールシステム	28
ハントロック・シートロック	14	エアクリナー	29
フューエルタンクキャップ・格納ステップ	15	プラグの点検	29
ラゲッジボックス	16	ギヤオイル交換	30
運行前点検	17	フロントブレーキ点検	30
ブレーキ	18	ブレーキフルード点検	31
エンジンオイル量点検	19	フロントフォーク点検	31
エアクリナー	19	ヒューズ	32
タイヤ	20	バッテリー	32
スロットルグリップ	21	主要諸元	33
スイッチ類	21	定期点検記録簿	34
燃料	21	保証書	35~36
触媒	22	保証登録書	37

安全に運転する為の注意点

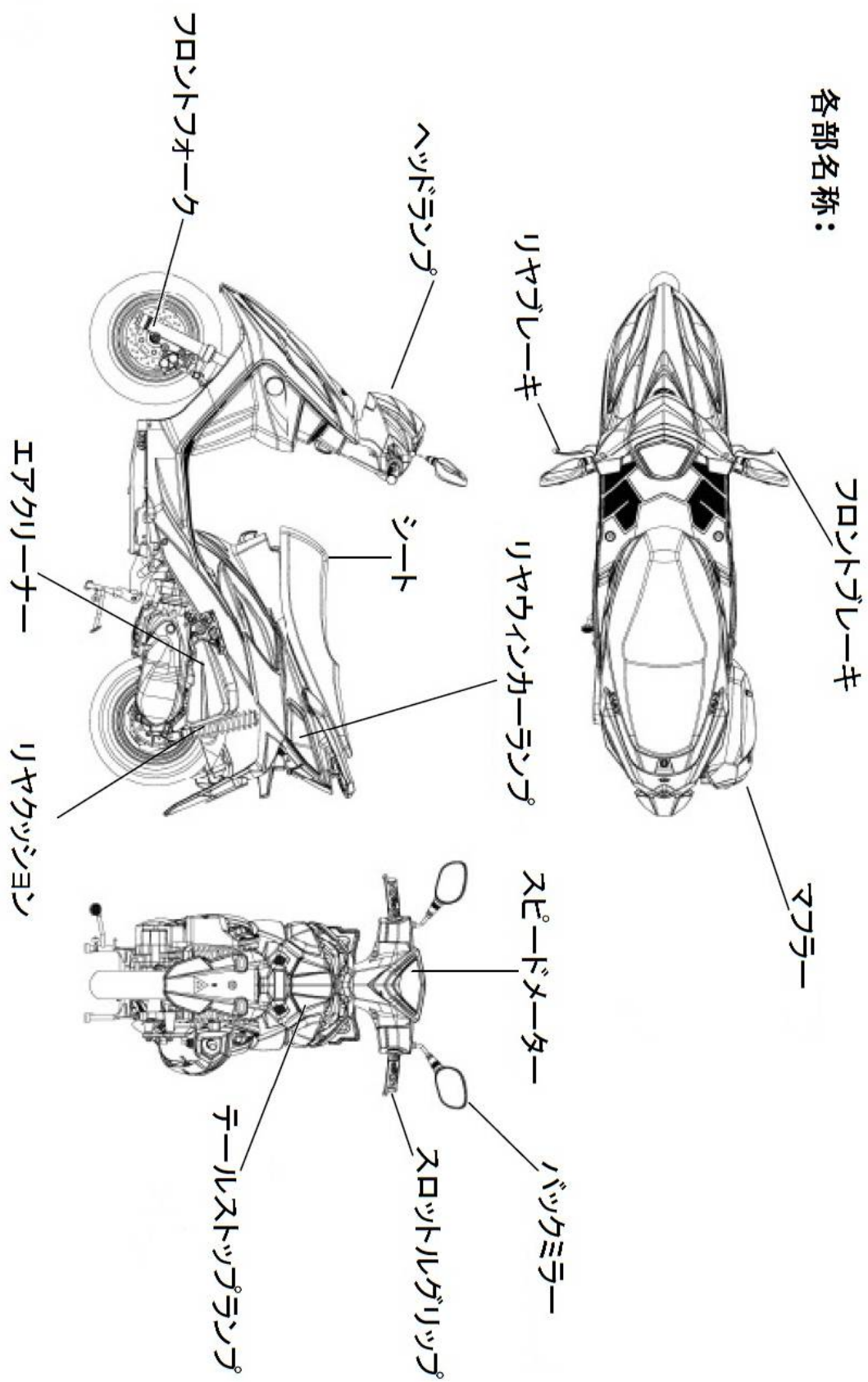
▲ 警告

運転時は十分な余裕を持ち、以下の用件に留意する必要があることを予め了解下さい。

安全運転のために

- 1 運行前点検は必ず実行し、修理が必要であれば修理をしてから運行してください。
- 2 多くの事故は経験の少ないライダーに関係します、慎重に運転しましょう。
- 3 乗車時は運転操作を妨げない服装で、明るい色の物を着用しましょう。他の運転者の死角に入らないようにしましょう。
- 4 交通法規を遵守してください。過度な速度は事故につながります、速度は控えめにしましょう。
- 5 他の交通に迷惑を掛けない様に気を付けましょう、交差点や駐車場の出入り口等は特に注意が必要です。
- 6 乗車時はハンドルをしっかり持ち、足はステップボードに乗せ、正しい姿勢で乗りましょう、後席に乗車させる人はステップに足を乗せ保持してください。
- 7 エンジン을 掛けたまま車両から離れないようにしてください。
- 8 悪路を走行する時はスピードを落とし、強い衝撃を受けないよう操作してください。

各部名称:



車体識別

車体を識別する為にフレームナンバーとエンジンナンバーがあります。

1. ラゲッジボックスの後方のフレームに打刻されています。



2. エンジンナンバーはベルトケース後端部に打刻されています。



フレームナンバー及びエンジンナンバーは部品の注文時に必要なだけでなく、盗難等に遭われた時に車体識別の為に必要です、メモなどにして保管されることをお勧めいたします。

シャッターキー操作方法

1. シャッターの閉め方。



開いている状態



シャッターを指で閉める

2. シャッターの開け方。



握り部分の突起部を使い



鍵穴下の溝にはめて時計回りにまわす

スピードメーターインジケーター



1. EMS チェックランプ EMS の状態を点灯状態で表示します。
2. ハイビームインジケーター（ブルー） ハイビームとパッシング使用時に点灯します。
3. ODO TRIP OIL 積算計
4. オイル交換表示灯
オイル交換時期に点灯します、オイル交換後表示解除を行って下さい。（解除方法は P8 参照）
5. シグナルインジケーター ウィンカー作動時に点滅します。
6. スピードメーター 速度を表示します。
7. フューエルメーターガソリン残量を表示します 1 目盛りになったら直ちに給油して下さい。
8. デジタルクロック
9. バッテリーチェックインジケーター
この警告灯が点灯する場合はお買い求め頂いた販売店または PGO SCOOTER 取扱店にご相談下さい。



- 10. タコメーター エンジン回転数を表示します。
- 11. セレクトボタン
- 12. アジャストボタン
- 13. ストップアンドゴーシステムインジケーター
ストップアンドゴーシステム使用時に点滅します。

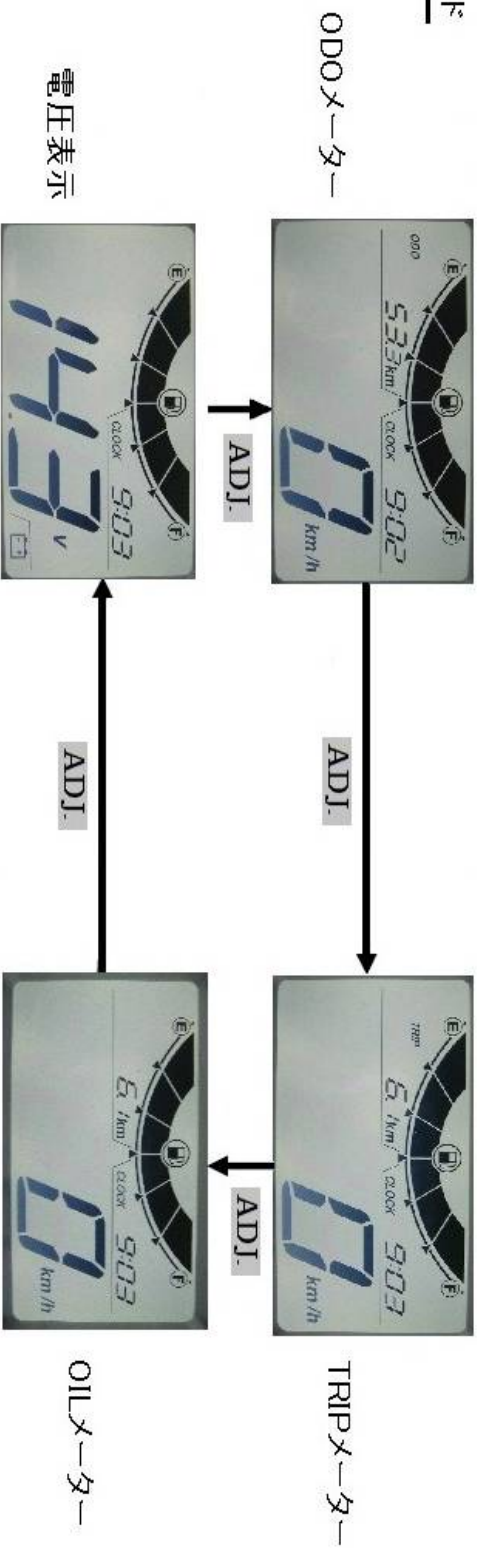


画面の左上に DTC+数字の表示が出た場合は故障を検知した表示です。
無理に走行をせず、お買い求め頂いた販売店又は PGO SCOOTER 取扱店に
ご相談下さい。

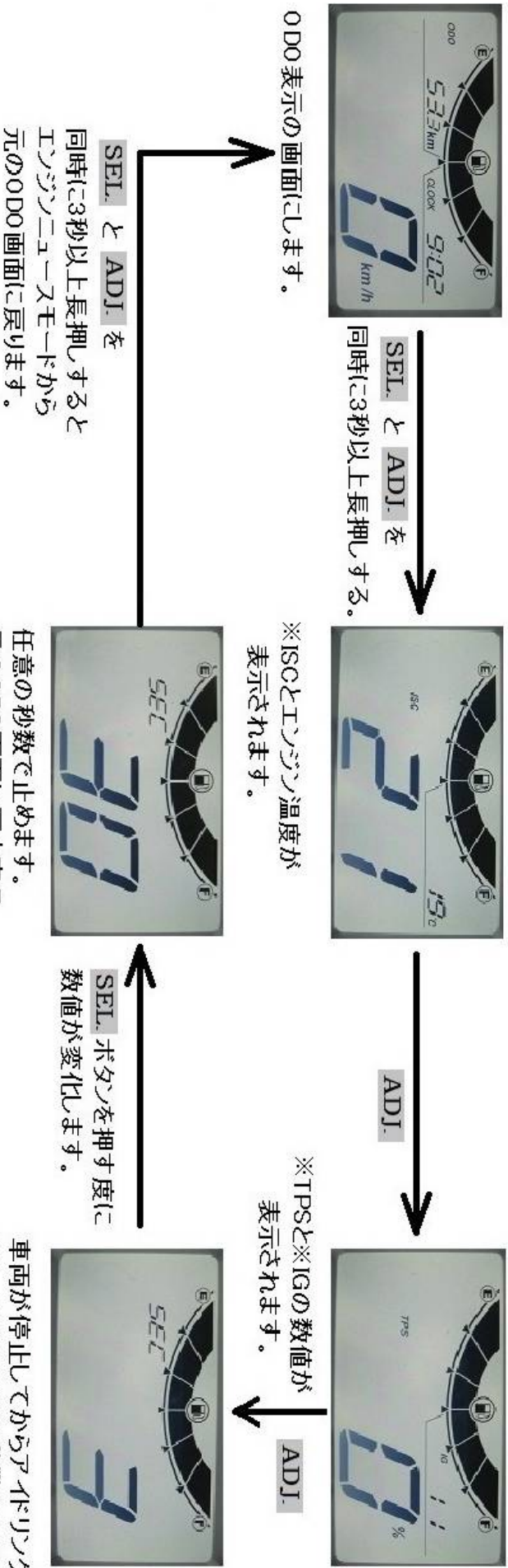
SELECT・ADJUST ボタン表示及び操作方法

機能 モード	表示	SEL	ADJ	結果
基本画面切り替え	ODO	押す		TRIP
	TRIP	押す		OIL
	OIL	押す		Battery
	Battery	押す		ODO
	TRIP		3秒長押し	TRIP 0 km
リセット(トリップ)	ODO		3秒長押し	時間表示点滅
時計合わせ	時間表示点滅		押す	0~23選択
	選択された時間表示点滅	押す		分表示に切り替え
	分表示点滅		押す	0~59選択
	選択された分表示点滅	10秒間操作をしない		点滅が終わり完了
	点灯		3秒長押し	点滅
オイルインジケータ点灯時 (オイルインジケータ点灯時)	点滅		3秒長押し	消灯
エンジンメニュー	メインメニュー	3秒長押し	3秒長押し	ISO & Temp
	ISO & Temp		押す	IG & TPS
	IG&TPS		押す	ストップアラートセッティング
ストップアラートセッティング	SEO	押す		3~30選択
	SEO	3秒長押し	3秒長押し	メインメニュー

● ペーシングモード



● エンジンニュースとストップランプ動作開始時間設定



※ISCとエンジン温度が表示されます。

※TPSと※IGの数値が表示されます。

SEL. ボタンを押す度に数値が変化します。

車両が停止してからアイリングストップ開始までの秒数を表示します。

※ISC: Idle speed controller

※TPS: Throttle position sensor

※IG: Ignition timing

● 時計の合わせ方



ODOの画面で**ADJ**ボタン長押しすると、時計合わせモードになります。数字が点滅している箇所の数値変更は **ADJ** ボタンで変更出来ます。HourとMinuteの切り替えは**SEL** ボタンを押すと切り替わります。調整完了後は **SEL** と**ADJ** ボタンを同時に長押しするか、無操作で10秒以上経過すると時計合わせモードから通常モードへ戻ります。

● 故障コードの表示と消去方法



まず、はじめにODOの画面にします。**SEL** と**ADJ** ボタンを同時に長押ししてエンジンニュース画面に移行させるとエラーコードが表示されます。



エンジンニュース画面に故障がある場合は液晶画面の左上にDTCが表示されます、DTCの後の数字が故障検知数を表します。

● オイル交換インジケータの消し方



オイル交換インジケータが点灯した場合は速やかにオイル交換を行い、その後、以下の手順でインジケータを消去して下さい。ベージックモードのOILメーター画面にします。

ADJ ボタン長押しするとOILメーターの距離がゼロになるとともに、オイルインジケータが消去出来ます。オイルインジケータの点灯前にもオイルメーターの距離はリセット出来ます。

エラーが複数ある場合は **SEL** ボタンを押すたびにDTC1→DTC2→DTC3と切り替わって表示します。

SEL ボタンを長押しすると原因が解消されているエラーコードは消去出来ます、原因の解消されていないエラーコードは消去出来ません、原因の解消後に再度消去して下さい。

ストップアンドゴー コントロールシステム

ストップアンドゴーコントロールシステムは信号待ち等で停車した際に一定時間車両が動かない状態を検知するとシステムがアイドリングを止めて再始動のスタンバイ状態で待機するシステムです。

システムの作動には、以下の条件を満たさなければなりません。

◆ アイドルストップ作動要件

- ・ 右ハンドルスイッチのストップアンドゴースイッチが  マーク側になっている事。
- ・ バッテリー電圧が 12.3V 以上ある事。
- ・ 標高が 1000m 以下である事。
- ・ エンジン温度が 60℃ 以上である事。
- ・ 走行中に速度が 10 km/h 以上になった事。
- ・ 現時点で停止して速度 0 km/h である事。
- ・ アイドリング状態になってから設定されたアイドルストップまでの秒数を経過した事。
(初期設定値は 3 秒です)

上記の条件を満たされればエンジンは自動的に停止します。
(ECU 及び各種センサー情報による測定値で判断しています)



エンジンの再始動

- ◆ ブレーキを握りアクセルを少しだけゆっくりとひねって下さい。(ここで急にスロットルを開けたり大きくスロットルを開けると乗員保護機能が働きエンジンは掛かりません。)
- ◆ 通常とおなじようにブレーキを握ってスタートボタンを押す事でもエンジンは始動出来ます。

エンジン再始動に制限が掛かる場合

以下の条件の時は ECU(車載コンピューター)が安全の為に再始動に制限を掛けエンジンが掛かりません。

- ◆ ブレーキを握っていない場合
- ◆ スロットル操作が急に開いた場合とスロットル開度が過剰に多い場合
- ◆ 急激なスロットル操作で再始動出来ない状態が3回続いて起きるとストップアンドゴーシステムが働かなくなりスロットル操作では再始動されなくなります。

スタートボタンで再始動は出来ませんがストップアンドゴーシステムはキャンセルされます。

※ストップアンドゴー機能を回復するには。

一旦キーを **OFF** にして再度キーを **ON** にする事でストップアンドゴーシステムを再起動させる必要が有ります。

ストップアンドゴースイッチ

- ◆  このマークの方向にスイッチが **ON** になっている状態がストップアンドゴー作動状態です。
- ◆ 反対にスイッチが操作されている状態ではストップアンドゴー作動は切れていて作動しません。



この写真の状態はストップアンドゴー作動状態です。

注意！

アイドリング停止状態の間、ポジションランプ・テールランプとメーター照明は点灯を続けます、しかし、ヘッドライトの明るさは 20%に制御されます。アイドリング停止状態が 10 分以上継続した場合ヘッドライトは自動的に消灯します。

※ アイドルストップ作動中にウィンカーの点滅速度は若干速くなる事があります。

ハンドルスイッチ操作方法

1. HI/LO ビームスイッチ



HI・・・ハイビームがオンの状態です。



LO・・・ロービームがオンの状態です。

スイッチがLO側にあるとき、さらに下向きにスイッチを押すとパッシングさせることができます。

2. ターンシグナルスイッチ

ウインカーを出したい方向へスイッチを押し込むと出した方向のウインカーが点滅します。
戻るときは中立の位置でボタンをまっすぐ押すとキャンセルできます。

3. ホーンスイッチ

スイッチを押すことにより、ホーンを鳴らすことができます。

4. ストップアンドゴースイッチ

ストップアンドゴーシステムを作動させるスイッチです、マーク側が押されている状態が作動側です。

5. ヘッドライトスイッチ

ヘッドライトをOFF⇄ポジション⇄ONに切り替えるスイッチです。
日本仕様はヘッドライト常時点灯の為作動しません。

6. スターターボタン

エンジン始動させるボタンです、単独では作動しません、左右どちらかもしくは両方のブレーキを握りながら押すとエンジンを始動します。

※5秒以上連続してスターターボタンを押し続けしないで下さい、一度でエンジンが掛からない場合は10秒程度間隔をあけて再度スターターボタンを押してください。



ハンドルロック

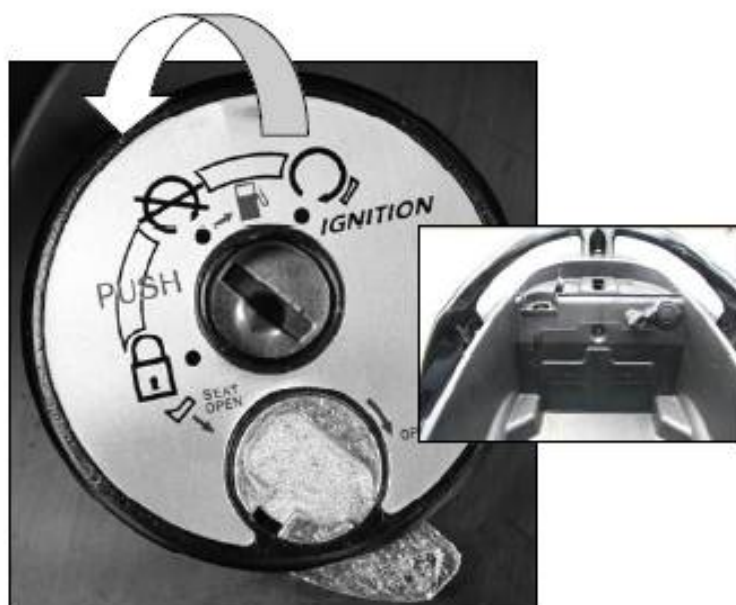
ハンドルロックを掛ける為には、まずハンドルを左に切り、次にキーを  の

位置から  の位置に回す。もし回らない場合はハンドルを少し戻して行う。



シートロック

キーがどの位置からでも押しながら左にひねる事でシートを開けることができます。



フューエルタンクキャップ

- キーを  オフの位置から押しながら右にひねるとフューエルタンクキャップを開けることができます。
- 閉める時は、キャップを上から押し込んでください。



後席乗員用 格納ステップ

後席乗員用のステップが装備されており、不使用時は格納する事が出来ます。

格納状態からは一度内側へ押し込んで『カチッ』と音がするまで押し込んでから手を離すと使用状態までスプリングの力で飛び出します。

使用状態からは格納状態まで押し込むと『カチッ』と音がする所で保持します、押し込み過ぎると再び飛び出してしまうので静かに一度目の音がしたところで手を離して下さい。

<注意>

運転者はこのステップを使用しないで下さい。

格納方向に力が加わると倒れるので注意してご使用下さい。



ラゲッジボックス

座席の下がラゲッジボックスになっています。



- ラゲッジボックス内の耐荷重は最大10kgまでです。
- 長時間エンジンが作動しているとラゲッジボックス内の温度が上がる事がありますのでご注意ください。
- 壊れやすいものは入れないで下さい。
- 雨天や洗車などでボックス内に水が入る場合があります、防水性のある物で包むようにしてください。
- 車両から離れるときは必ずシートロックをご確認ください。
- ヘルメットはラゲッジスペースに収納できます。ラゲッジスペースに収まらない場合はシートヒンジの両脇にヘルメットホルダーが装備されていますのでヘルメットホルダーを使用して下さい。

※ヘルメット等を破損した場合、車両の保障では対応致しかねますので予めご了承下さい。

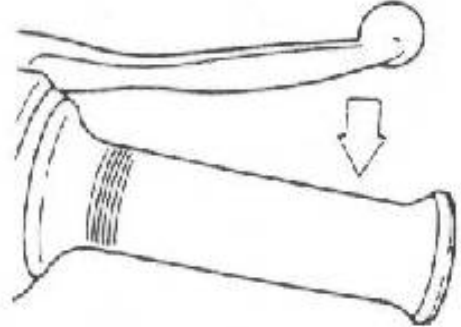
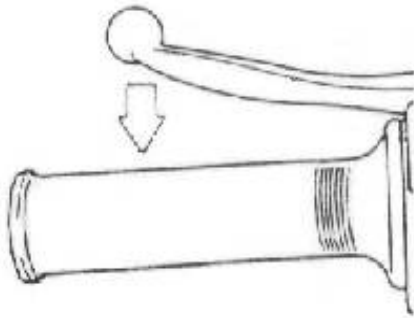
運行前点検項目

車両運行前に必ず以下の項目を点検下さい。

項目	点検内容	ページ
フロントブレーキ リヤブレーキ	作動、遊び、液量を点検し補充の場合は FMVSS DOT4 または SAEJ 1703 ブレーキオイルを補充してください。	18
スロットル グリップ	スムーズに作動するか点検し、必要であれば給油する。	21
タイヤ	空気圧と磨耗状態を点検する。	20
ケーブル類	スムーズに作動するか点検し、必要であれば給油する。	—
ブレーキレバー	スムーズに作動するか点検し、必要であれば給油する。	18
センタースタンド	スムーズに作動するか点検し、必要であれば給油する。	—
各部組みつけ	各部取り付け状態を点検し、必要に応じて増し締めや 調整を行う。	—
燃料タンク	残量を点検し、必要なら補充する、漏れが無いか点検する。	21
灯火類	点灯確認を行い切れているものは交換する。	—
油脂類	オイルレベルゲージでエンジンオイルの量と汚れを点検し必要なら ば交換する。メーター内インジケーターも点検すること。 ギヤオイルも点検する。 クーラントの量を点検し、必要ならば補充すること。	18・19

ブレーキ

1. ブレーキレバーには適切な遊びが必要です、約10～20mm遊びがあることを確認し、少なすぎたり多すぎたりする場合は、最寄りのPGO取扱店で点検を受けてください。
2. ブレーキを数回掛け、離れた時にホイールが軽く回るか点検する。
回転が重い場合はブレーキパッドの戻りが悪い可能性がありますので、最寄りのPGO取扱店で点検を受けてください。



フロントブレーキ

ハンドルを持ちレバーを握り機能していることを確認してください。
作動時に違和感がある場合は速やかにPGO取扱店で点検を受けてください。

- * 運行前点検を怠ると何らかの不具合が生じる危険がありますので必ず点検を行い必要な修理、調整を毎日でも実行してください。

ブレーキフルード

ブレーキフルードの量はハンドルカバー横から覗き込むと点検窓により点検できます。

リザーバタンクを水平にしてから点検して下さい。

補充が必要な場合はFMVSS DOT 4

またはSAE J1703の物を補充してください。

また、ブレーキホースやホース接続部分等に於いて液漏れを発見した場合は絶対に運行せず。

速やかにPGO取扱店で点検・整備を受けてください。



ブレーキパッド

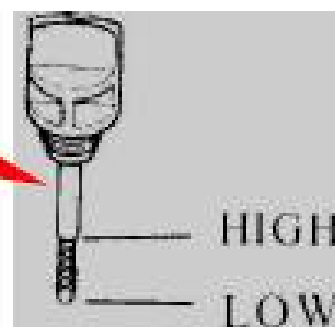
ブレーキフルードの減少及び握ったときの違和感はブレーキパッドが減ったことに起因する場合があります、速やかにPGO取扱店で点検を受けてください。

- * ブレーキパッド交換は有資格者に委託してください。

エンジンオイル量点検

4T エンジン

- エンジンオイルは初回 3 0 0 k m で、その後 3 0 0 0 k m 毎に交換してください。
 - レベルゲージを使用する場合、必ずエンジン停止状態で行ってください。
 - オイルレベル点検は平坦な場所で暖気後 2 ～ 3 分経ってから行ってください。
 - オイルレベルゲージのロワレベル以下にならないようオイルを補充して下さい。
- ※オイル交換推奨インジケータは 1, 0 0 0 k m 毎に点灯します、予めご了承下さい。



エアクリナー

エアクリナーは空気中の埃を取り除きエンジンの磨耗度合い軽減に重要な部品です。常に清潔であるようにあなた自身もしくは PGO 取扱店で定期的なメンテナンスを行ってください。



タイヤ

タイヤの性能を保持し磨耗を抑える為に以下の点に留意してください。

1. 空気圧

空気圧は基準値を守りましょう。

※ 空気圧の測定は走行前に行い、外気とタイヤ内空気の温度差が生じない状態で測定してください。また、外部からの圧力も正確な測定の妨げになります。

空気圧の基準値は 前輪：2.0kg/cm² 後輪：2.0kg/cm² です。



空気圧が高い場合



空気圧が低い場合

2. 簡単な点検

乗車前にタイヤの外観を点検し過度の磨耗や釘など刺さっていた場合は、速やかに PGO 取扱店で点検・整備を受けてください。

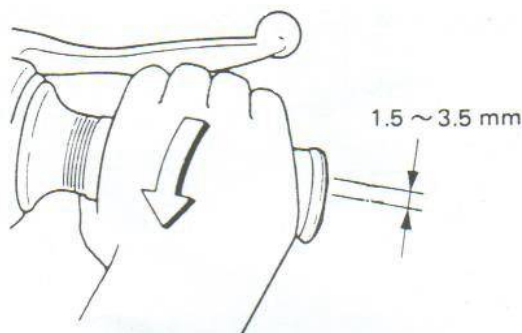
3. タイヤ溝の深さチェック

過度に磨耗したタイヤは大変危険です、溝の深さが十分ないと、泥や濡れた路面で顕著に滑ります。溝の深さを点検し0.8mm以下になったら速やかに交換しましょう。

スロットルグリップ

- スロットルグリップを操作し遊び量と作動状態を確認して下さい。
- 手を離れた時、速やかに元の位置へ戻るか確認して下さい。

調整方法は PGO 取扱店へお問い合わせ頂くか依頼して下さい。



灯火類

スイッチを操作し、すべてのランプ、バルブ、インジケーターが作動することを確認して下さい。

スイッチ類

スイッチを操作し、作動を確認して下さい。

燃料

燃料が十分にあるか確認して下さい。

タンク容量は 5.8 L です。

※ 注意！

1. 燃料は無鉛ガソリンを使用して下さい。
2. 給油口の細くなっている部分までガソリンを満たさないで下さい、あふれてしまう危険性が有ります。

触媒

触媒は排気ガス中の有害物質を低減させる為の装置で、排気管内に設置されています。



1. 走行直後のマフラーは高温になり危険です、駐車する時は周りに燃えやすいものが無い事を確認し、なるべく歩行者などから遠ざけて駐車してください。
2. 燃料は必ず無鉛のガソリンを給油してください。
3. 走行中や空ぶかし直後にメインスイッチをオフにしないで下さい、未燃焼ガスが触媒を過度に加熱させ機能低下に繋がります。
4. 燃えやすい物の上での走行、駐停車はしないで下さい。
5. 常に良好なエンジン状態を保ち、異常燃焼で触媒を過度に熱を持たせないようにしてください。
6. 触媒が正常な作動を続ける為に、定期点検を心掛けてください。

乗車する際の注意事項

1. 乗車する前にすべての操作システム及び機能を把握してください。又、何らかの問題がある場合は PGO 取扱店にご相談下さい。
2. 締め切った場所でエンジンを掛けしないで下さい。
3. 乗車前にサイドスタンドを必ず確認して下さい、サイドスタンドを出したまま走行すると大変危険です。

エンジン始動

1. メインキーを "〇" の位置まで回してください。
2. メーター初期動作終了を確認後、スロットルグリップ**全閉**状態でブレーキレバーを握り、スタートボタンを 5 秒以内に押して下さい。



※ 注意！

エンジンが掛からない時でも、連続して 5 秒以上スタートボタンを押し続けしないで下さい、電気系統に過大な負荷が掛かり故障の原因になります。

暖機運転

エンジン保護の為に運行前に 1 ～ 3 分程度アイドリングをしてエンジンを暖機して下さい。始動直後で暖まらないうちに負荷を掛けないようにして下さい。

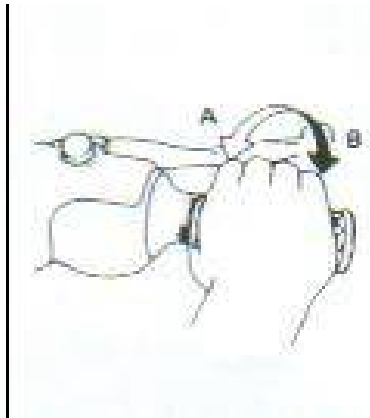
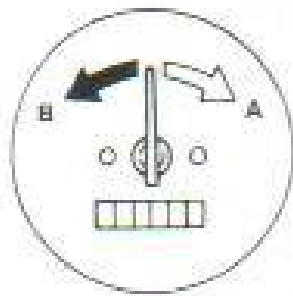
☆ 新車購入直後の場合は“P25 エンジンの慣らし運転”のページをよく読み、まず慣らし運転を行って下さい。

スクーターに乗るにあたって（暖機終了後）

1. リヤブレーキを握ったままセンタースタンドを上げてください。
2. 正しい乗車姿勢でシートに座り、バックミラーを調節してください。
3. 周りの交通状況を確認後、発車の合図を出してから発車しましょう。
4. ゆっくりスロットルグリップを操作し、発車出来たら合図を戻しましょう。

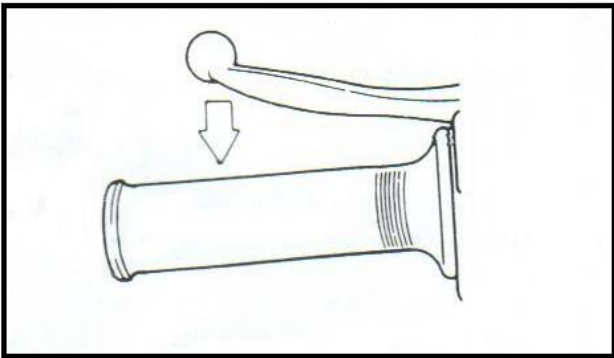
スロットル操作

スロットルグリップを手前に捻ると増速し、戻すと減速します。スムーズな操作を心掛けましょう。

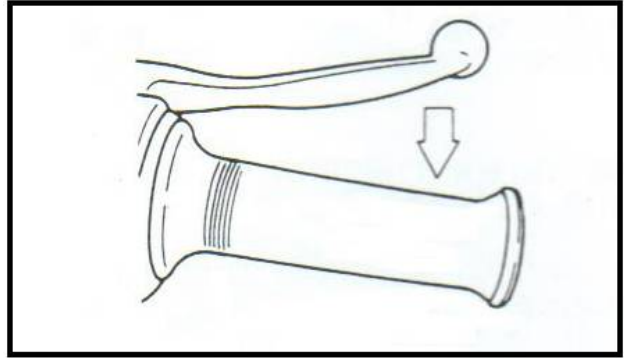


ブレーキ操作

1. スロットルグリップを戻して下さい。
2. 前後ブレーキをゆっくり握って下さい。



リヤブレーキ



フロントブレーキ

※ 注意！

1. 滑ったり、転ぶ恐れがあるので急ブレーキは避けて下さい。
2. 車体が傾いている時は特に注意して操作しましょう、不用意な操作は転倒等の原因になります。
3. 未舗装路やマンホール、濡れた路面等は滑りやすい為スピードを落としてください。
4. 濡れた路面や下り坂ではブレーキが効きづらくなります、余裕を持って減速して下さい。

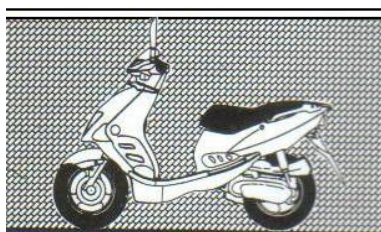
エンジンの慣らし運転

新車から 1,000 k m まではスクーターの寿命に一番影響する時です、1,000 k m を超えるまでは過大な負担を避け、出力の半分程度で走行しましょう。

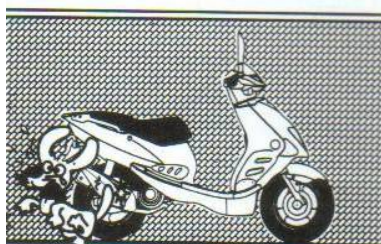
エンジン各部が適切なクリアランスを確保出来るように、過大な負担や急激な動作は避けましょう。

1. 0 ～ 1 5 0 k m スロットル開度は 1 / 2 以下にしてください。1 時間に 5 ～ 1 0 分程度エンジンを冷やすようにし同じ速度を長時間保持しないで、速度を変えながら走行します。
2. 1 5 0 ～ 5 0 0 k m 長時間スロットル開度 1 / 2 以上で保持しないで下さい。
※ 3 0 0 k m で一度エンジンオイルとオイルフィルターとギヤオイルを交換して下さい。
3. 5 0 0 ～ 1 , 0 0 0 k m スロットル開度 3 / 4 以下にしてください。
4. 1 , 0 0 0 k m 以上 長時間全開で走行しないようにして下さい。
※ 注意！ 慣らし運転中に何か問題が起きた場合、PGO 取扱店にご相談下さい。

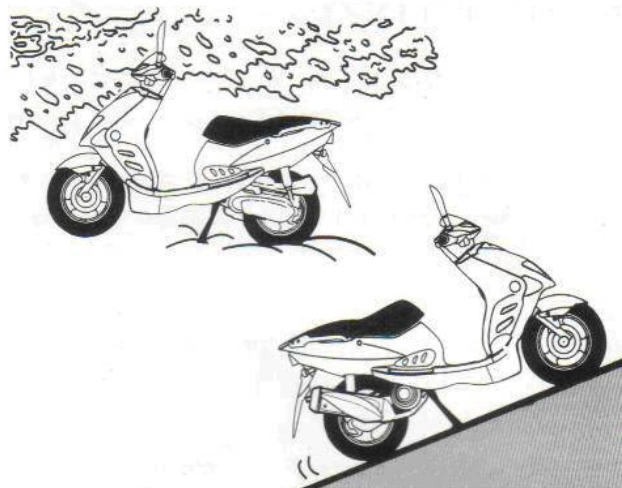
駐車



正しい止め方



誤った止め方



誤った止め方

※ 注意！ 走行直後はマフラーが非常に熱くなっている為、子供や歩行者から出来るだけ離して駐車して下さい。

坂道や地盤が不安定な場所は転倒する危険性がある為駐車しないで下さい。

定期点検

性能を維持し安全に運転をする為に、定期点検を励行し定められた期間に点検、調整潤滑油の補充・交換を行って下さい。

安全運転は運転者の義務です、メンテナンスと油脂類の補充は常に意識し、偶発的な事故以外の重要な予防措置と認識ください。

＊注意！ 舗装路の走行を目的にデザインされていますので、悪路や濡れた

路面を走行する時は、エンジンの消耗が早まるのでエアクリナーを頻繁に掃除して下さい。

点検や整備についてご不明な点がある時は、PGO 取扱店へお尋ね下さい。

定期点検スケジュール

項目	内容	定期点検と走行距離による点検						
定期点検月		1	3	6	9	1 2	1 5	1 8
走行距離		300	3000	5000	8000	10000	13000	15000
エンジンオイル*	交換（800cc） 全容量（1000cc）	○	3000 k m毎に交換。					
オイルフィルタ	交換	○	5000 k m毎に交換					
オイル ストレーナー*	清掃又は交換	○	3000 k m毎に清掃又は交換					
エアクリナー	清掃又は交換		○	○	○	○	○	○
ギヤオイル*	交換（90cc） 全容量（110cc）	○	○		○		○	
ブレーキ	作動と液漏れ点検		○	○	○	○	○	○
クラッチシュー*	点検又は交換		○	○	○	○	○	○
タイヤ	磨耗点検又は交換		○	○	○	○	○	○
車軸*	点検・増し締め		○	○	○	○	○	○
F フォーク*	機構及び液漏れ点検	○	○	○	○	○	○	○
ステムベアリン*	ガタ点検・増し締め			○		○		○

“*” マークの項目は PGO 取扱店にて点検・整備を依頼して下さい。

項目	内容	定期点検と走行距離による点検						
定期点検月		1	3	6	9	1 2	1 5	1 8
走行距離		300	3000	5000	8000	10000	13000	15000
サスペンション*	作動と液漏れ点検	○	○		○		○	
メイン・サイド スタンド	作動点検又は交換	○	○	○	○	○	○	○
各ボルトナット	緩み点検・増し締め	○	○	○	○	○	○	○
バッテリー	電圧点検・電極清掃		○	○	○	○	○	○
バルブ クリアランス*	冷間時に測定する IN・EX 共 0.08mm	必要であれば調整する。						
スパークプラグ*	清掃又は交換			○		○		○
V ベルト*	磨耗点検又は交換			○	A	○	A	○
フューエルフィーデ ィングシステム*	ホースのヒビとブ ロックの点検			○		○		○
アイドル回転数*	1650±100rpm	○	○	○	○	○	○	○

“*” マークの項目は PGO 取扱店にて点検・整備を依頼して下さい。

“A” マークの項目はエンジン性能が著しく低下している場合、点検又は交換して下さい。

※ エンジン保護の為に新車から 300 k m 走行時にエンジンオイル・オイル
フィルター・オイルストレーナー清掃・ギヤオイル交換を行って下さい。

※ ブレーキフルード交換

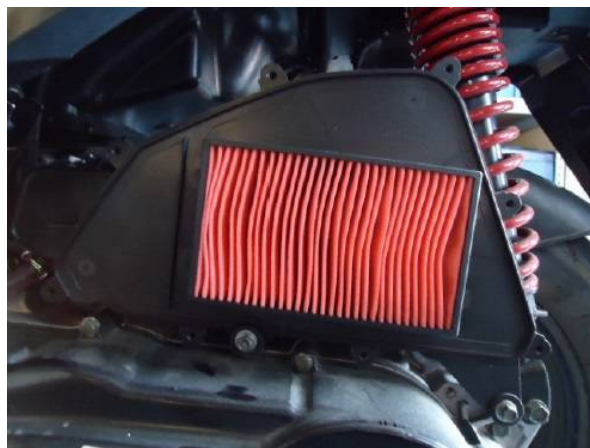
1. マスターシリンダー分解や、キャリパー分解時には新しいフルードを補充してください
2. 油量はこまめに点検して下さい。
3. マスターシリンダーとキャリパーは 2 年毎に交換して下さい。
4. ブレーキホースは 4 年毎に交換して下さい。

エキゾーストコントロールシステムのメンテナンス（触媒装着車）

1. 触媒は、燃料・イグニッション・インテーク／エキゾーストシステムを定期的にメンテナンスすることによって、触媒のメンテナンスとなります。
2. エアクリナーを点検（19・29ページ参照）
3. スパークプラグの点検（29ページ参照）
4. 燃料システムの点検： フューエルパイプのひび、漏れの点検又は交換。
5. マフラー点検： 排気漏れを点検、必要ならばガスケット交換。
6. アイドリング点検

もしも不安定な場合は PGO 取扱店にて点検・整備を依頼して下さい。

エアクリナー



4T エンジン

エアクリナー点検時にエアクリナーボックス内に多くホコリの蓄積が認められるような場合はエンジン出力の低下と燃料消費増大に原因があると考えられます、こまめに点検、清掃を行いましょう。

1. エアクリナーカバーを外す。
2. エアクリナーエレメントを外す。
3. 圧縮空気で汚れを吹き飛ばして清掃し、必要ならば交換する。
4. エアクリナーエレメントを元の位置に戻し、カバーを隙間が開かないように気を付けて取り付ける。

※ 注意！ エアクリナー分解中にエンジンを掛けないで下さい、ホコリ等がエンジンに吸い込まれ内部を傷付ける恐れがあります。

プラグの点検

スパークプラグはエンジンの重要な部品のひとつです。プラグの状態でエンジンの燃焼状態を知ることが出来ます、プラグの焼け色が薄茶色であればエンジンが良好な燃焼状態であることを表します。もし問題があれば PGO 取扱店にご相談下さい。

時間の経過と共に熱やホコリで腐食したり焼け焦げたりするので、ある一定期間で新しい物と交換して下さい。

純正指定プラグ： **CR7HSA** (NGK) プラグキャップ 0.6～0.7mm

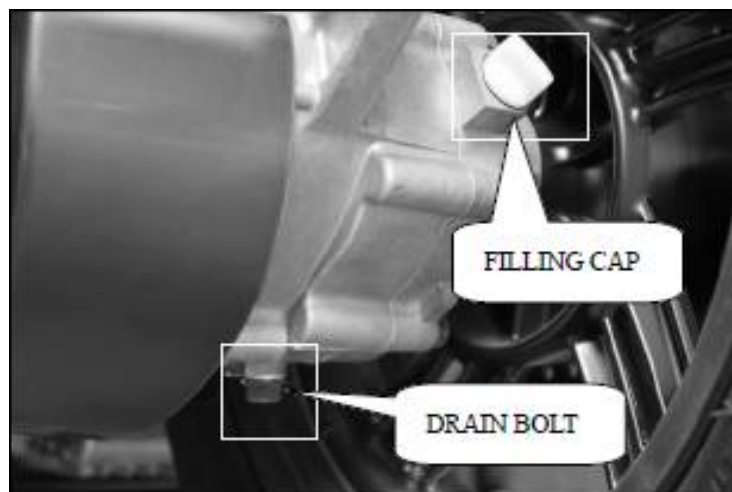
点検後は取り付ける前にねじ部とワッシャー部をきれいにしてから取り付けてください。

締め付けトルク： 1.2kg-m

もしトルクレンチが無い時は、手で回るところまでねじ込み、そこから $1/4 \sim 1/2$ 回転締め付け、後ほどトルクレンチで指定トルクで締め付けを行って下さい。

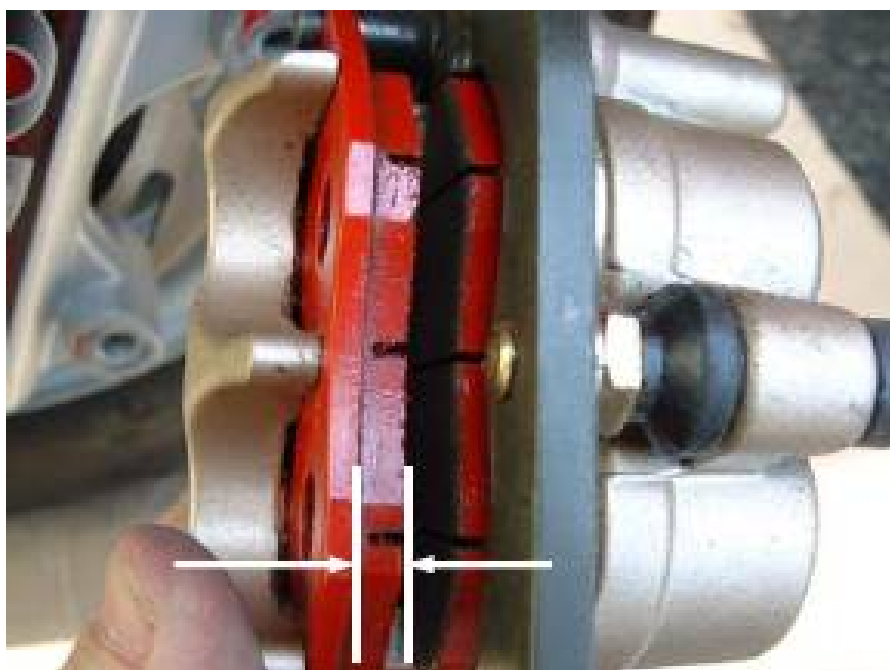
ギヤオイル交換

- 初回は 300 k m で、その後は 5000 k m ～ 6000 k m ごとに交換して下さい。
- 交換時容量：90 c c SAE140 全容量：110 c c



フロントブレーキ点検

フロントブレーキパッドの残量はパッドの溝の深さを見る事により点検することができます。パッドにある溝が無くなった時が使用限度です。



※ リヤブレーキも同様に点検を行って下さい。

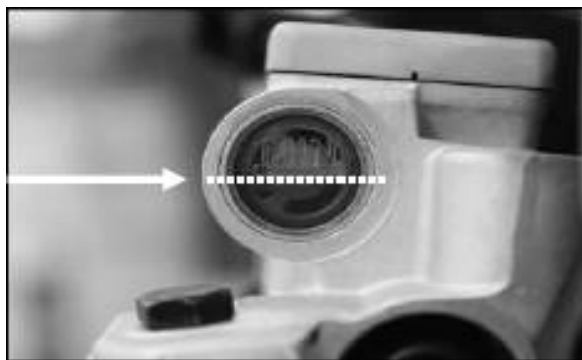
ブレーキフルード点検

リザーバタンク内のフルード液量が少ないとブレーキ液に空気が入る原因になります。ブレーキ液に空気が混入すると油圧が伝わりにくくなり制動力が著しく低下し危険です、こまめに液量を点検して下さい。

1. 液量点検時はリザーバタンクが水平になるようにハンドルを切ってください。
2. ブレーキフルードは必ず指定の規格品を使用して下さい、それ以外の使用はシール類を痛め液漏れの原因になります。

純正指定規格： FMVSS DOT4or SAE J1703

3. 補充するフルードは同じ種類の物を使用してください、混ぜる事は避けてください。
4. マスターシリンダー内に水が入らないようご注意下さい、水が混ざるとフルードの沸点が下がり、フルード内に気泡を生じさせ大変危険です。
5. フルードは塗装面を侵食します、こぼしてしまった時は直ちに拭き取り水拭きして下さい。
6. ブレーキの整備は資格を持つ整備士に依頼して下さい。



フロントフォーク点検

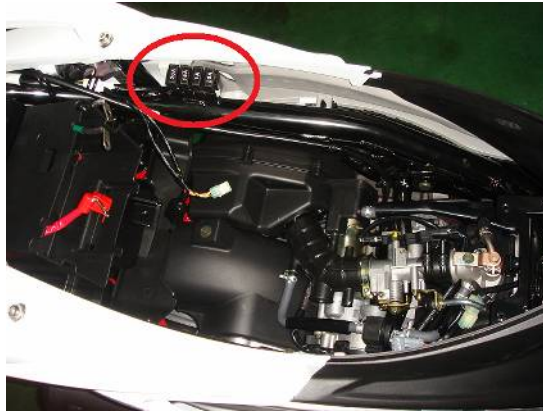
※ 注意！ アクシデント回避の為に、日常点検を励行して下さい。

1. 目視による点検
インナーパイプの傷、損傷、オイル漏れを点検する。
2. 作動点検
車輛を平坦な場所でハンドルを持ちフロントブレーキを掛けたまま前後にゆすり、フォークの作動を点検する。



ヒューズ

1. ヒューズはシート下のラゲッジボックスを外し、左ボディーカバー内側のフレームとの間に設置しています。
2. シートを開け、ラゲッジボックスを外し、バッテリーの左斜め前方のフレームの外側側面に取り付けてあるヒューズを外して点検して下さい。
3. ヒューズが断線している場合はメインスイッチを **OFF** にして、ヒューズが切れた原因を解消してからヒューズを交換して下さい。もしヒューズ交換後メインスイッチをオンにして再びヒューズが断線する場合は **PGO 取扱店**にご相談ください。



※ 注意！ ヒューズの定格アンペアより大きいアンペアのヒューズを使用しないで下さい。
定格アンペア以上のヒューズを使うと配線に強いダメージを与え、発火の原因となり大変危険です、必ず正しいアンペア数のヒューズをお取り付け下さい。

バッテリー

バッテリーはメンテナンスフリータイプなので液量の点検及び補充は必要ありません。
万一バッテリー液が漏れている場合は、至急使用を中止して **PGO 取扱店**にご相談下さい。

※ 注意！

バッテリーのシール（ふた）を取る事は絶対にしないで下さい、バッテリーを損傷させる恐れがあります。



JXC-125DAIE 主要諸元

車名			P G O		フレーム		スチールチューブ		
形式			JXC-125DAIE		サスペンション	フロント		テレスコピック	
外形 寸法	全長		1800 mm			リヤ		ダブルアブソーバー	
	全幅		735 mm		トランスミッション	1次減速		0.82~2.40	
	全高		1110 mm			2次減速		43/15*42/13	
	車軸間距離		1260 mm			クラッチ		遠心クラッチ	
						変速機		C.V.T 式	
重量	車体重量	前輪	49 kg			タイヤ	前輪		3.50-10
		後輪	73 kg		後輪		3.50-10		
		合計	122 kg						
	乗車人員		2 (150KG)		ブレーキ	前輪		ディスク	
	総重量	前輪	91 kg			後輪		ドラム	
		後輪	181 kg		スピードメーター		デジタル式		
		合計	272 kg		灯火類	ヘッドランプ		12V-60W/55W	
ENGINE	型式		J1			リヤランプ/ ナンバー 灯		12V-5W/12V-5W	
	燃料		無鉛ガソリン			ブレーキランプ		12V-21W	
	サイクル/冷却方式		4 ストローク/ 空冷式			ウinkerランプ		12V-10W/12V-10W	
	シリンダー	ボア	φ 52.4 mm		ホーン		DC 12V		
		ストローク	57.8 mm		マフラー		触媒式		
		気筒数	単気筒		排気方式		右後方排気		
	排気量		124.6 c.c.		潤滑方式		圧送飛沫式		
	圧縮比		10.0:1		ブローバイ還元装置		採用		
	最高出力		7.4kW/8000rpm		触媒		装備		
	最大トルク		9.6N-m/6500rpm		FUEL TANK 容量		5.8 L		
	エンジン様式		ホリゾンタル						
	点火方式		トランジスタ						
	始動方式		セルフスタート						

定期点検記録簿

計画 Km	実行 Km	日付	販売店サイン
3 0 0			
1, 0 0 0			
2, 0 0 0			
3, 0 0 0			
4, 0 0 0			
5, 0 0 0			
6, 0 0 0			
7, 0 0 0			
8, 0 0 0			
9, 0 0 0			
1 0, 0 0 0			
1 1, 0 0 0			
1 2, 0 0 0			
1 3, 0 0 0			
1 4, 0 0 0			
1 5, 0 0 0			
1 6, 0 0 0			
1 7, 0 0 0			
1 8, 0 0 0			
1 9, 0 0 0			
2 0, 0 0 0			
2 1, 0 0 0			
2 2, 0 0 0			
2 3, 0 0 0			
2 4, 0 0 0			
2 5, 0 0 0			

保 証 書

お買上げ頂いたお車を構成する各部品に材料または製造上の不具合がおきた場合、この保証書に示す期間と条件に従って、下記の保証修理を致します。

一. 保証範囲：

1. 保証内容 お車を取扱説明書に従った整備をおこない正常に使われている上で万一、部品に材料または製造上の不具合がおきた場合、無料修理いたします。（保証修理は部品の交換もあります）（以下この無料修理を保証修理といいます）。 尚、取外した部品は弊社の所有となります。
2. 保証期間 新車を登録または届出した日から 1 年間もしくは走行距離 15,000 km までのいずれか早い方までが保証期間となります。
3. 保証対象 PGO 日本代理店：（有）ナーベルフォースが販売する PGO ブランドスクーターで、販売店が（有）ナーベルフォースにユーザー登録を行っている車両。

二. 保証修理の受け方：

保証修理をお受けになる場合は、お車とこの保証書をお買上げの販売店へお持ち下さい。これにより保証修理を致します。※提示されない場合は、保証修理をいたしかねます。

各販売店様は販売後速やかにユーザー登録を PGO 日本代理店：（有）ナーベルフォースにして下さい。

三. 保証できない事項：

1. 次に示す事項は保証修理いたしません。
 - (1) 時の経過で発生する不具合（塗装面等の自然退色、メッキ面などのさび、消耗品の劣化等）
 - (2) 機能上影響のない感覚的現象（音、振動、オイルのにじみなど）
 - (3) 地震・台風・水害等の天災・事故・火災に起因する不具合
 - (4) 純正部品及び指定する油脂類（オイル・ブレーキ液・冷却液等）以外の使用に起因する不具合。
 - (5) 煤煙・薬品・鳥糞・塩害等に起因する不具合
 - (6) レース・ラリーなどによる酷使或は一般に車輛が走行しない場所での走行に起因する不具合。
 - (7) 法令に違反する改造及び弊社の認めていない改造に起因する不具合
 - (8) 盗難にあったお車
 - (9) 無免許運転に起因する不具合
 - (10) 保管又は整備不良に起因する人為的な不具合
2. 次に示す費用は負担いたしません
 - (1) 消耗部品の費用（ライト類・ゴム類・ワイヤー類・ネジ類・ピストン・スパークプラグ・ワッシャー類・ブレーキパット・ブレーキライニング・V型ベルト・ヒューズ・など）
 - (2) 油脂類・燃料・バッテリー液などの交換補充の費用
 - (3) お車を使用出来なかった事による不便さ及び損失など（電話代・レンタカー代・休業補償・営業損失等）
 - (4) 車輛修理に伴うレッカー代
 - (5) PGO 純正部品であっても本来使われている部品以外の転用も改造になり補償対象から外れます

四. 保証修理をお受けできない事項

1. 法令及び取扱説明書に示す取扱方法と異なる使用方法及び弊社が示す仕様の限度（最大積載量・乗車定員）をこえて使用した場合
2. 下記の点検整備を実施していなかった場合
 - (1) 乗車前の点検
 - (2) 弊社の指定する定期点検
3. 定期点検整備記録簿を保持していなかった場合
 - (1) 定期点検整備記録簿を大事に保管してください

五. 保証の発効

この保証書は、お買上げ頂いた正規販売店が保証登録書に必要事項を記入、捺印することにより有効となります。

六. 保証の継承

保証期間が残っているお車をお買上げの際は、ご購入後、直ちに正規販売店へお車と保証書をお持ちになり、名義の書換え、必要な点検（有料）と必要事項の記入、捺印をお受け下さい。これにより残りの期間を保証いたします。

七. 保証の適用

この保証書は、日本国内で販売し使用されることを前提としております。従って海外へ持出す場合は、その時点で保証が打切りとなりますのでご注意ください。

- ＊ この保証書は、本書に明示された期間と条件をもとに無料保証をお約束するものです。この範疇を超えたものに関しては、原則として有償となります。

PGO SCOOTER 日本代理店
有限会社 ナーベルフォース
埼玉県戸田市美女木 7-15-6
TEL : 048-449-0021 FAX : 048-449-0022